

## 平成 22 年度共同利用実施報告書(研究実績報告書)

## 1. 共同利用種目 (該当種目にチェック)

- 特定共同研究(A)     特定共同研究(B)     特定共同研究(C)     一般共同研究  
 地震・火山噴火予知研究     施設・実験装置・観測機器等の利用  
 データ・資料等の利用     研究集会

2. 課題番号または共同利用コード 2010-G-14

## 3. プロジェクト名、研究課題、集会名、または利用施設・装置・機器・データ等の名称

和文：紀伊半島と周辺地域 の中新世火成岩:表層地質から付加体深部の地殻構造を探る

英文：Miocene igneous rock in the region around the Kii peninsula: to understand the crustal structure of deeper part of the accretionary complex.

4. 研究代表者所属・氏名 東京経済大学経営学部・新正裕尚

(地震研究所担当教員名) 折橋裕二

## 5. 利用者・参加者の詳細 (研究代表者を含む。必要に応じ行を追加すること)

氏名	所属・職名	利用・参加内容または 施設,装置,機器,データ	利用・参加期間	日 数	旅費 支給
新正裕尚	東京経済大学・教授	ICP-MS, XRF	平成 22 年 4 月～平成 22 年 12 月	10 日	無

## 6. 研究内容 (コンマ区切りで 3 つ以上のキーワードおよび 400 字程度の成果概要を記入)

キーワード：中新世，火成活動，付加体，年代測定

紀伊半島外帯域を中心とする，西南日本中新世火成岩の岩石化学および放射年代についての研究を進展させるために，地震研究所設置のレーザーアブレーション ICP 質量分析計を用いたジルコンの局所領域分析による，ウラン・鉛年代測定を進めた．主要な分析対象は紀伊半島南端部の潮岬火成複合岩体と周辺の火成岩，堆積岩である．潮岬火成岩体の試料からは外帯花こう岩の範囲と重複する年代が得られ，紀伊半島の中新世火成活動は広域的に同時発生したことが判った．また，併せて，IODP Exp.322 航海で得られたコア試料の中で，四国海盆上の中新世堆積物試料から分離したジルコンについても，ウラン・鉛年代測定を行った．外帯域から遊走したと推定される，珪長質火砕物のジルコンからは，外帯域の中新世火成岩と合致する年代が得られ．また，砂岩試料からは極めて多様な年代を持つ碎屑性ジルコン粒子を見いだし，日本海拡大直前に中朝地塊起源の粗粒碎屑粒子が四国海盆まで運搬されていたものと推定している．

年代測定に関連した試料の全岩化学組成の分析も，地震研究所設置の蛍光 X 線分析装置 (XRF) などを用いて行った．その一部の結果については，論文として投稿中である (成果公表の 1)．

7. 研究実績報告（公表された成果のリスト\*<sup>1</sup>または2000～3000字の報告書）

（\*<sup>1</sup>論文タイトル、雑誌・学会・セミナー等の名称、謝辞への記載の有無、ポイント数、電子ファイル添付のこと）

【論文】

- （1）新正裕尚・黒川貴之・外西奈津美：紀伊半島南部, 古座川弧状岩脈の凝灰岩, 花崗斑岩の全岩化学組成. 東京経済大学人文自然科学論集（投稿中）謝辞に記載有り. 6ポイント.

【学会講演】

- （2）新正裕尚・折橋裕二・岩野英樹・檀原徹：紀伊半島南部、潮岬火成複合岩類と周辺の中新世火成岩のジルコン U-Pb 年代. 日本火山学会 2010 年度秋期大会（京都大学）. 10 月 10 日. 謝辞に記載無し. 2ポイント.